

久米っ子だより

2025年9月11日 第10号

<https://kuwana.schoolweb.ne.jp/24020013>



令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から

4月に6年生を対象として実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がこの夏に出ましたのでお知らせします。実施教科は国語・算数・理科です。久米小学校は3教科とも平均正答率が、国および三重県の平均を下回りました。国語は僅差でしたが、算数・理科についてはちょっと気になる差が出ました。

今回の対象は6年生でしたが、「学校の課題」として捉え、全職員で「強みと弱み」を共有し、課題改善の具体的な方策をもって今後の授業に活かしていきたいと思います。

以下に今回の結果についての概要をお知らせします。

【国語】

一定の成果として認められる内容

○知識・技能（情報の扱い方に関する事項）

- ・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

○思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）

- ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる

○思考・判断・表現（書くこと）

- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

<考察>

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができていた。また、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることもできていた。

さらに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができていた。上記のことは、これまで基礎学力の定着に意図して取り組んできたことと、「自分の言葉で書く活動」の成果が表れていると考える。今後の学習においても、文章の読み取りを丁寧に行い、段落ごとに内容の整理を行い、その過程でのペア学習やグループトークで児童自身が理解・納得できるよう授業に取り組んでいきたい。

課題として考えられる内容

S-P表からも学校全体として「重点的に指導すべきだと考えられる問題」

○思考・判断・表現（話すこと・聞くこと）

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することができる
- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる

○思考・判断・表現（読むこと）

- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を元に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる

<考察>

「選択する」ことに大きな弱みが見られた。作文の問題では、条件を満たしつつ工夫して作文できたにもかかわらず、4択の問題では全国に比べて正答率が大きく下がった。4択の問題は3問の内2問は、2種類のキーワードによって選択肢が大きく2種類に分かれている。まずはそのどちらかを選び、選択肢を熟読した上で正しいものを選ぶという段取りになるのだが、回答状況を詳しく見ると、「最初の選択」を間違えている子どもが多いことが分かった。文章の内容を正しく読み取り、登場人物が意図していることとして最も適切なものを選ぶということに苦慮したことが分かる。

授業において、「文章を正しく読み取る」「登場人物の意図を整理する」といったことを丁寧に確認するような場面の設定が必要である。ワークシートの活用や、ペア・グループ学習での「対話」活動の場で上記の課題が解決していけるよう授業改善を行う必要がある。

【算数】

一定の成果として認められる内容

○思考・判断・表現（数と計算）

- ・示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる

○思考・判断・表現（数と計算・変化と関係・データの活用）

- ・伴って変わる二つの数量の关系到に着目し、必要な数量を見いだすことができる

<考察>

必要な情報を選び、数量の関係を捉え、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さの求め方を式に表し、答えを求めることができている。また、新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、ハンドソープの液体の量のほかに、1プッシュ分のハンドソープの液体の量が必要であると判断できている。これは、正答への道筋をイメージしてから図表を見て、立式したり必要な情報を選択したりする姿勢（授業スタイル）ができていること、そして、ペア学習やグルーブトークでの議論によって子どもたちが理解と納得を繰り返しながら学びを深めることができることなどの成果だと思われる。

課題として考えられる内容

S-P表からも学校全体として「重点的に指導すべきだと考えられる問題」

○思考・判断・表現（数と計算）

- ・ $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く

○思考・判断・表現（図形）

- ・五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く

○思考・判断・表現（変化と関係）

- ・10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ

<考察>

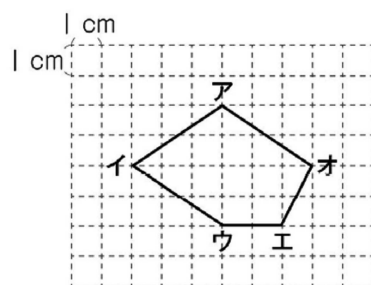
算数については特定分野において大きな課題が見られた。特に気になったのは以下の3点。

①異分母の分数の単位分数を見いだしてそれぞれ単位分数いくつ分かを記述する

問題は「 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ について、もともになる数を同じにするとその数は何になって、それぞれ幾つ分になるのか」というものだった。問題の前段で「 $\frac{2}{5}$ と $\frac{1}{5}$ ならこう考えます」という詳しい解説があるにもかかわらず、多くの児童が通分（ $\frac{3}{4} = \frac{9}{12}$ 、 $\frac{2}{3} = \frac{8}{12}$ ）だけして解答

を終えていた。通分ができるのなら、正答まであと少しだったのが残念である。問題の求めている「答え方」を理解し、前段の解説を参考にしながら解答できるような課題を授業に取り入れていく必要がある。

②五角形を二つの図形に分割し、それぞれの面積の求め方を式に表す

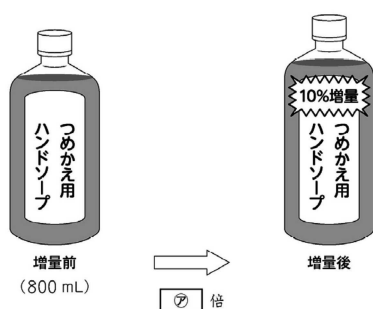


「直線イオ」または「直線ウオ」のどちらで分割するかを選択し、「三角形と台形」または「ひし形と三角形」の面積を求めるための立式をする問題である。問題には各図形の面積を求めるための公式も掲載されているので、底辺や高さなどの長さを見つければ立式は容易なはずである。しかし、多くの児童が「説明の言葉が足りない」「数値の記述がない」「マスを読み間違えている」「直線イオor

直線ウオの選択の理由を書いている」といった理由で誤答した。回答用紙を詳しく見てみると、非常にもったいない間違いが多かった。図形の面積の求め方はもとより、問題の求めていることを正しく理解し、正しい数値をもって立式ができるよう再度この問題に取り組み、授業での学びにも取り入れていきたい。

③「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表す

正しい答えを「0.1」「1.1」「10」「110」の中から選択するという問題だった。正答は「1.1」だが、半数以上の児童が「0.1」と答えた。「10%＝0.1」ということからの回答だと推察される。問題は「何倍ですか」と聞いている。「増量分」が増量前の何倍かという問題なら0.1は正答だが、問題にはそのようには書かれていない。「10%＝0.1」「何倍」「10%の増量」ということを踏まえて、「1.1」を選択するためにはやはり、問題の求めていることを正しく理解することが肝要である。授業においても解答する前に「問題は何を求めているのか」を確認してから取り組むリズムを作っていきたい。



1」だが、半数以上の児童が「0.1」と答えた。「10%＝0.1」ということからの回答だと推察される。問題は「何倍ですか」と聞いている。「増量分」が増量前の何倍かという問題なら0.1は正答だが、問題にはそのようには書かれていない。「10%＝0.1」「何倍」「10%の増量」ということを踏まえて、「1.1」を選択するためにはやはり、問題の求めていることを正しく理解することが肝要である。授業においても解答する前に「問題は何を求めているのか」を確認してから取り組むリズムを作っていきたい。

【理科】

一定の成果として認められる内容

○知識・技能（「エネルギー」「粒子」を柱とする領域）

- ・アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引きつけられるかそれぞれの性質に当てはまるものを選ぶ

○思考・判断・表現（「エネルギー」「地球」を柱とする領域）

- ・電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ

○思考・判断・表現（地球）を柱とする領域）

- ・赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く

<考察>

「エネルギー」「地球」を柱とする領域は比較的よくできている。登場人物の考えの根拠を、

問題に示されている実験の【結果】を基に考察し、適切に表現することができた。また、【結果】を基に、そこには載っていない実験の結果についても的確に予想することができていた。電流が作る磁力についても必要な知識が身についていた。

上記のことは、日常的に「知識だけ」に頼らず、問題にある状況を理解・イメージし、導き出したい結果を出すための記述や正しい選択ができたことの表れであると考え。また、日常の理科の授業において、意欲を持って実験に取り組み、結果についてもグループや学級全体で丁寧な検証をしてきたことの成果だと考える。

課題として考えられる内容

○知識・技能（「粒子」を柱とする領域）

- ・水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ

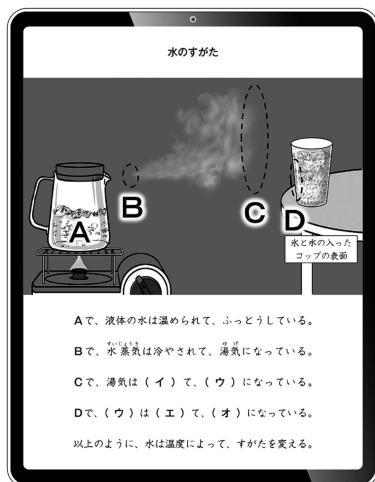
○思考・判断・表現（「粒子」を柱とする領域）

- ・水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く

○思考・判断・表現（「生命」を柱とする領域）

- ・ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ

<考察>



「粒子」「生命」を柱とする領域に課題が多く見られた。特に種子の発芽条件や水の状態変化については、知識の定着不足と図表の読み取りの甘さが原因と思われる誤答が多く見られた。発芽に必要な3つの条件を理解した上で、改めて、特定の条件が必要なことの実証実験について適切な選択ができなかった。また、水の温度による状態変化の有りようについて、「水」「水蒸気」「湯気」「氷」などの文言を正しく選択することが難しかった。

理科の学習で学ぶ各種「条件」や「現象」、「性質」について、実験や観察を通して、あるいは経験から得られた知識がつながった状態での定着を図り、その知識を活かして、観察や実験の結果を正確にイメージできるよう授業改善をしていく必要を感じた。

【児童質問紙（生活・学習状況）】

よいところ（「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合が高いもの）

- ・人が困っているときは、進んで助けている 93.3%
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う 95.6%
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う 97.8%
- ・学校に行くのは楽しいと思う 88.9%
- ・友達関係に満足している 88.9%
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか
「よくある」「ときどきある」 100%



- ・分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる 93.4%
- ・PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる 88.9%
- ・インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる 93.3%
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる 86.7%
- ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う 93.3%
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んで 93.4%
- ・あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている 86.7%
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる 93.4%

気になるところ（「どちらかというとはてはまらない」「あてはまらない」と回答した割合が高いもの）

- ・自分には、よいところがあると思う 20%
- ・将来の夢や目標を持っている 20%
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる 31.1%
- ・学校に行くのは楽しいと思う 11.1%
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う 17.8%
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） 0分から1時間：48.9%
- ・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 0～10分 62.2%
- ・読書は好き 48.9%
- ・PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思う 28.9%
- ・PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思う 35.5%
- ・学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている 13.3%

	国 語		算 数		理 科	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
勉強が得意	48.9%	51.1%	60.0%	40.0%	68.9%	31.1%
勉強が好き	40.0%	60.0%	48.8%	51.2%	66.6%	33.4%
授業が分かる	84.4%	15.6%	77.8%	22.2%	82.2%	17.8%

児童質問紙では、日常の生活の様子や、他者との関わり、学習に対する考え方等について答えてもらいました。「自分にはよいところがあり、教員にも認められている。学校は楽しいし、友達関係にも満足している」と多くの児童が答えています。また、学習活動に対しても前向きな姿勢も見られます。周りの人の考えを尊重し、互いに協力しながら課題解決に取り組んでいると考えている児童も多いことも分かりました。

一方で、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という設問に対して、3割を超える児童が否定的な回答をしたことが気になります。「教員に認められていて授業もわかりやすいと感じていながら、困り事や不安については相談しづらい」という結果を重く受け止めなければならないと思います。また、多くの児童が「学校に行くことは楽しい」と考えていますが、1割強の児童が否定的な回答をしていることも気になります。

教科の学習については興味深い結果となりましたので表にまとめてみました。教科すべて「授業が分かる」と多くの児童が回答していますが、「得意」と答えた児童はそれほど多くはなく、理科以外は「あまり好きではない」と答えています。この結果は学力調査の結果とリンクしていると考えべきだと思います。「学ぶ意欲」あってこそその学習ですので、授業のあり方について再度確認し、「子どもが学びの主体」の授業改善を継続して進めていきます。タブレットの活用が進み、多くの児童がインプットとアウトプットに活用できていることがうかがえますが、「読書離れ」が進んでいることを裏付ける結果も出ました。アナログとデジタル双方の強みを理解し、場面に応じて使い分けをしていくよう授業カリキュラムの設定が必要だと感じました。ペアワークやグループワークのあり方を再考していきます。教科担任制の利も活かしながら子どもたちの状況把握に努め、職員から「大丈夫?」「困ってない?」などの声かけをします。

【今後の取り組み】（すでに取り組んでいることも含んでいます）

- ・「誰一人取りこぼさない」ことを常に意識し、きめ細やかな対応に心がけます。
- ・子どもたちが達成感や自己肯定感、自己有用感を感じられるような学級・学校運営に心がけます。
- ・授業では学びの見通しを持つために「学びのゴール」を明らかにします。
- ・「何を学んだのか」「どう学んだのか」「その学びは自分のこれからにどう生きていくのか」といった「学びの自覚」ができるよう「振り返り」活動を行います。
- ・自他の考えを尊重し、ともに認め合える雰囲気醸成に努めます。
- ・ペア学習やグループでの「対話活動」を通して学びが深められるよう、授業を工夫します。
- ・問題に取り組むときは「何を求めるのか」「答えを出すために必要な情報は何か」「出した答えは何を意味するのか」「これからどう役立つのか」といったことの確認を丁寧に行います。
- ・教科担任制のメリットを最大限活かし、子どもたちが安心して学べる環境づくりを進めるとともに、教科の系統性を意識できる授業改善を行います。
- ・読書に親しめるようソフト・ハード面の整備を進めます。
- ・語彙力を高められるよう、自分の意見を発信する方法を柔軟に選択しつつ、子どもたち同士のコミュニケーションに活かします。
- ・個別最適な学びができるよう、ICT機器の活用および自由進度学習を進めます。
- ・「3つの言葉がけ」に家庭や地域とも連携して取り組み、子どもたちの「自己決定の場」を多く設定することで、様々な活動を「自分ごと」にできるよう努めます。
- ・読書ウィークの取り組みを継続していきます。
- ・国内外を問わず、現在の社会状況について、子どもの発達段階に合わせて話題にしていきます。

☆保護者の皆様へ☆

今回の調査は、調査対象児童の学力の全てが把握できるものではありません。また、調査結果を成績表に反映させることもありません。ただ、学力に関して「この調査」でわかってきた「強み」と「弱み」は「全校児童について同様のことが言える」という認識の元、分析結果や今後の授業改善に向けての具体的な取り組みを職員で確認と共有をしました。保護者の皆様におかれましては、日常の家庭生活において、先にお示しした「課題として考えられる内容」に関わって、子どもの興味・関心を大事にしながら、お家でできることに取り組んでいただけたらと思います。例えば

- 会話を単語でのやりとりで済ますのではなく、文章で会話をするようにする。
- 新聞記事やネットニュースを話題にして、考えたことについて会話をする。
- 「勘違いしてるかも？」と思われる発言があったときに、ただそれを正すのではなく、勘違いに自分で気づけるよう会話を工夫する。
- 新聞やチラシ、パンフレットなどからわかることを話し合う機会をつくる。
- 家庭生活の中で、子どもに自己決定させる機会をつくる。
- 「本物のよさ」を体験できる活動をさせる。
- 宿題を「している」か「していない」かの確認ではなく、宿題の内容を確認し、困っていれば適切なアドバイスをする。



※お忙しい毎日だとは思いますが、できる範囲で取り組んでいただけるとありがたいです。

【個人的な感想】

全国学力・学習状況調査の結果を個人ごとに、あるいは設問ごとに考察していくだけでは十分ではありません。S-P表(※)を詳しく見てみると、誤答であっても実は「当該児童にとって正答が比較的容易だったと考えられる問題」の割合がけっこう高いことがわかります。要するに「問題をよく読まなかった」「こういう問題だと思い込んでいた(勘違いしていた)」といったミスによる誤答が少なからずあったのではないかと推測されます。こういうミスはもったいないです。また、正答率が低い問題の中でも重点的に指導すべき問題の傾向についても明らかになりました。単純に「知識」だけの問題ではなく、設問にいかに正対しているかが大切だと思います。設問について「何が問われているのか」「どんなことに留意して解答しなければならないのか」といったことの丁寧な確認が、どの学年においても必要だと考えます。上記について職員全員で確認し、授業において改善できるよう努めています。お家の方のご協力もどうぞお願いします。

※S-P表：「全国学力・学習状況調査の結果を、学級単位で、縦と横がそれぞれ児童生徒（S:Student）と設問（P:Problem）の正答数の多い順に並べ替えた表の中に、S曲線とP曲線を書き入れたものであり、これを活用することにより、平均正答率だけでは把握できない、学級全体の課題の傾向や、個々の児童生徒が理解していない可能性が高い設問を見つけ出すことができる」というものです。

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/28/1409621_1.pdf



↑ S-P表解説